



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 10月号

令和 4年 9月 30日
横浜市立青木小学校

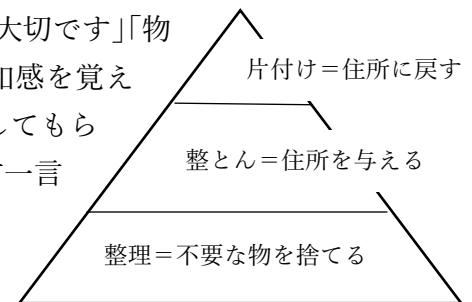
不要な物を捨てる、住所を与える、住所に戻す

校長 永野 美雄

今の世の中、物が溢れ、整理整頓を心掛けていても少し気を許すと身の回りが散らかってしまいます。また、不要なものを処分しようとしても、いろいろな思いから捨てきれないことがあります。迷ったときは、場所を決めて仮置きし、一定期間を過ぎて使わなかったら処分するなど、工夫している方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

整理整頓については5年生の家庭科で取り上げられています。「整理・整とんで快適に」という単元です。青木小学校ではゲストティーチャーとしてテレビや雑誌でもご活躍の整理収納アドバイザー 要 愛（かなめ めぐみ）先生をお迎えし、学級ごとに指導していただいています。

授業では、要先生が3色の四角いカードをそれぞれ4枚ずつとスマイルマークの丸いカード数枚を不規則に黒板に貼っていきます。ここではスマイルカードは不要になったものを意味します。指名された子が、まず不要なスマイルカードを取り除きます。すると子どもから「すっきりした」「隙間ができた」とすかさず反応があります。次に指名された子が色ごとにまとまるように並び替えると、さらにすっきりした感覚が視覚を通して感じ取れます。この活動の後、「整理は不要な物を捨てること、整頓は物に住所を与えること、片付けは物を住所に戻すこと。そして必ず整理から整頓へ、整頓から片付けへと進むことが大切です」「物に住所が決まっていれば、そこに収まっていない状態に違和感を覚えて、心がざわざわするようになります。その感覚を大事にしたいです」と右図を板書しながら話されました。その一言一言が心に響くものでした。



後半は、いよいよ実践です。自分の道具箱を机の上に出し、整理整頓を始めました。「スマイル君を見つけました！」と言って、嬉しそうにゴミ箱に捨てに行く子どもたち。「きれいになりました！」と満面の笑みで整った道具箱を見せに来る子どもたち。その表情から、道具箱だけでなく、心まですっきりしたことが分かります。

授業終末では、「スペースができて、物がとりやすくなりました」「まとまりごとにラベルを付けてみたいと思いました」「家族に教えてあげたいです」など、整理整頓の効果と実践意欲が伝わってくる感想が聞かれました。

最後に要先生から整理整頓や片付けには、前向きになれるパワーがあって、やる気がアップしたり、ストレスを軽減したりする効果があるといった話がありました。整理整頓という生涯役に立つ学習を効果的にご指導くださった要先生に感謝します。